

大学研究力強化に向けた取組 ～多様な研究大学群の形成に向けて～

- 1. 世界と伍する研究大学の実現に向けた大学ファンドの創設**
- 2. 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージについて
(総合振興パッケージ)**
- 3. 大学の強みや特色を伸ばす取組の強化
(大学研究力関係)**

「国際卓越研究大学の研究及び研究成果の活用のための体制の強化に関する法律」の成立

1. 審議経過

閣議決定日：令和4年2月25日
衆議院審議終了日：令和4年4月28日（可決）
参議院審議終了日：令和4年5月18日（可決・成立）
公布年月日：令和4年5月25日（法律第51号）
（参考資料）条文等関係資料、委員会附帯決議



2. 閣議後会見（5月20日）

末松文部科学大臣

「大学は、国内外の人が集まり、人を魅了して、そして人を育成するということの三つが重要です。世界と伍する研究大学の実現と、地域の大学等も含めた我が国の大学の研究力強化に向けて、引き続き全力で取り組んでまいります」



国際卓越研究大学の研究及び研究成果の活用のための体制の強化に関する法律の概要

趣旨

我が国の大学の国際競争力の強化及びイノベーションの創出の促進を図るためには、国際的に卓越した研究の展開及び経済社会に変化をもたらす研究成果の活用が相当程度見込まれる大学について研究及び研究成果の活用のための体制を強化することが重要であることに鑑み、当該体制の強化の推進に関する基本方針の作成、国際卓越研究大学の認定、国際卓越研究大学の研究等の体制の強化のための事業の実施に関する計画の認可、当該事業に関する国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)による助成等について定める。

制度のポイント

国公私の設置形態にかかわらず、**世界と伍する研究大学となるポテンシャルのある大学を認定し、大学ファンドによる助成等**、総合的な支援を行う。

概要

1. 基本方針の策定等【第2条、第3条関係】

- **国際卓越研究大学の認定、計画の認可、JSTの助成等に関する基本方針**を文部科学大臣が策定。
- 国は、研究者の自主性の尊重その他の大学における教育研究の特性に配慮。

2. 国際卓越研究大学の認定【第4条関係】

- 以下の①、②に関して一定の基準を満たす大学を、国際的に卓越した研究の展開及び経済社会に変化をもたらす研究成果の活用が相当程度見込まれる大学**(国際卓越研究大学)**として文部科学大臣が認定。
① **研究及び研究成果の活用の実績・体制** ② **効果的な資源配分等を行う運営体制、研究と管理運営の業務の役割分担等の業務執行体制、財政基盤**

3. 計画の認可・JSTの助成等【第5条～第8条関係】

- 国際卓越研究大学の①**研究等の体制強化の目標**、②**目標を達成するための事業内容**、③**資金の額及び調達方法**等を記載した**計画を文部科学大臣が認可**。
 - ・ 事業の内容：研究環境の整備充実、若年研究者の育成、国際的に卓越した能力を有する研究者等の確保、研究成果活用のための技術者等の育成、研究成果活用のための環境の整備充実
- **JSTは基本方針に即して文部科学大臣の認可を受けて実施方針を定め、②に関し助成**。

4. 報告の徴収等及び認定・認可の取消し【第4条、第9条～第11条関係】

- 文部科学大臣による認可計画の実施状況に関する**報告の徴収等**。
- **認定・認可基準を満たさなくなったとき等**には文部科学大臣による**認定の取消し、計画認可の取消し**。

5. 附則(関係法令の一部改正等)

- 国際的に卓越した研究の展開及び経済社会に変化をもたらす研究成果の活用が相当程度見込まれる大学について、大学の経営に係る重要事項の決定及び実施に、多様な専門的知見を有する者の参画が得られるようにするため検討を行い、特に国立大学法人の経営管理体制の改革を早急に進める。
- 3. の助成に係るJSTの業務の範囲の追加。等

※基本方針の策定、国際卓越研究大学の認定、計画の認可、助成の実施方針の認可等に当たっては、**総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)からの意見聴取**等を行う。

施行期日

公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日

国際卓越研究大学の 将来像 (イメージ)

大学ファンドによる支援を通じて、
日本の大学が目指す将来の姿

- 世界最高水準の研究環境（待遇、研究設備、サポート体制等）で、世界トップクラスの人材が結集
- 英語と日本語を共通言語として、海外トップ大学と日常的に連携している世界標準の教育研究環境
- 授業料が免除され、生活費の支給も受け、思う存分、研究しながら、博士号を取得可能



日本と海外の比較

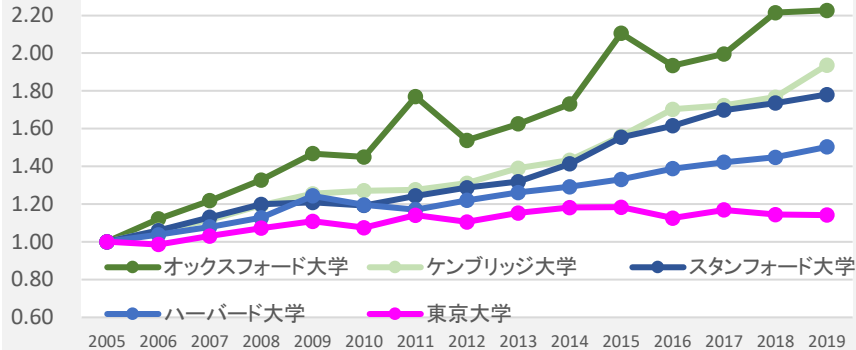
	関連データ	日本	海外
世界最高水準の研究環境 (待遇、研究設備、サポート体制等) で、世界トップクラスの人材が結集	注目度の高い論文数(Top10%補正論文数) ※2017-2019年(自然科学系、分数カウント法、平均)	3,787(10位)	中国：40,219(1位) 米国：37,124(2位) 英国：8,687(3位)
	大学教授の平均給与(2018年)	東京大学：1,197万円 京都大学：1,096万円 東北大学：1,067万円	ハーバード大学：2,592万円 スタンフォード大学：2,797万円 カリフォルニア大学バークレー校：2,196万円
	教員一人あたりの職員数 ※世界と伍する研究大学専門調査会より	東京大学：0.7人 京都大学：0.7人 東北大学：0.6人	ハーバード大学：2.8人 スタンフォード大学：1.6人 カリフォルニア大学バークレー校：2.2人
	女性研究者比率 ※総務省科学技術研究調査報告(令和3年)より	16.9%	英国：38.6% 米国：33.9% ドイツ：28.1%
	大学発ベンチャー企業設立数 ※経済産業省令和2年度産業技術調査 (大学発ベンチャー実態等調査)報告書より	244社 (2019年度)	米国：987社 (2019年度)
英語と日本語を共通言語として、 海外トップ大学と 日常的に連携している 世界標準の教育研究環境	大学院生における留学生の割合 ※大学ランキング(QS、2022年版)より	東京大学：24% 慶應大学：28% 早稲田大学：45%	ハーバード大学：30% ケンブリッジ大学：61% カリフォルニア大学バークレー校：28%
	外国人教員の割合 ※大学ランキング(QS、2022年版)より	東京大学：6.6% 慶應大学：7.1% 早稲田大学：13.9%	ハーバード大学：32.2% ケンブリッジ大学：51.7% カリフォルニア大学バークレー校：39.0%
授業料が免除され、 生活費の支給も受け、 思う存分、研究しながら、 博士号を取得可能	博士号取得者数(2018年度)	15,143人	米国：91,887人 中国：59,368人 ドイツ：27,838人
	博士課程学生への経済的支援 ※世界と伍する研究大学専門調査会より	博士課程学生一人あたりの 受給額(2018年度時点) 180万円以上：10.1% 60~180万円：10.9% 60万円未満：21.1% 受給なし：54.6%	米国の研究大学に所属する博士課程学生の 平均受給額：\$24,700(約270万円)

知の基盤強化と人材育成強化①（10兆円規模の大学ファンド・大学改革）

■ **10兆円規模の大学ファンドを創設**し、若手研究者支援や新興分野研究に向けた研究基盤の強化や**大学改革**を進める。

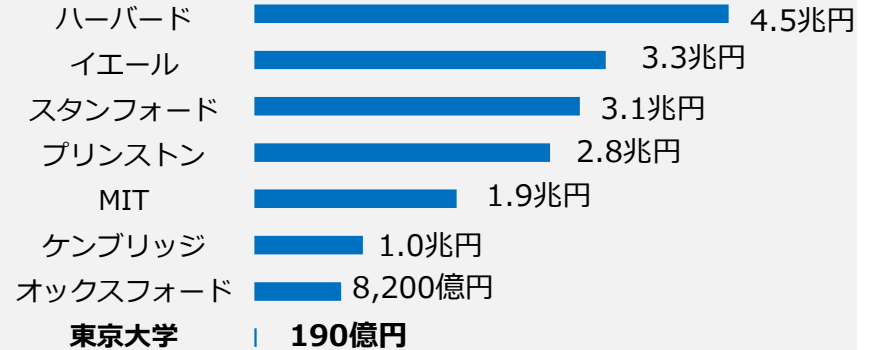
諸外国の大学は着実に成長

各国大学収入の成長指数
(インフレ調整済、2005年を1とした場合の各年の値)

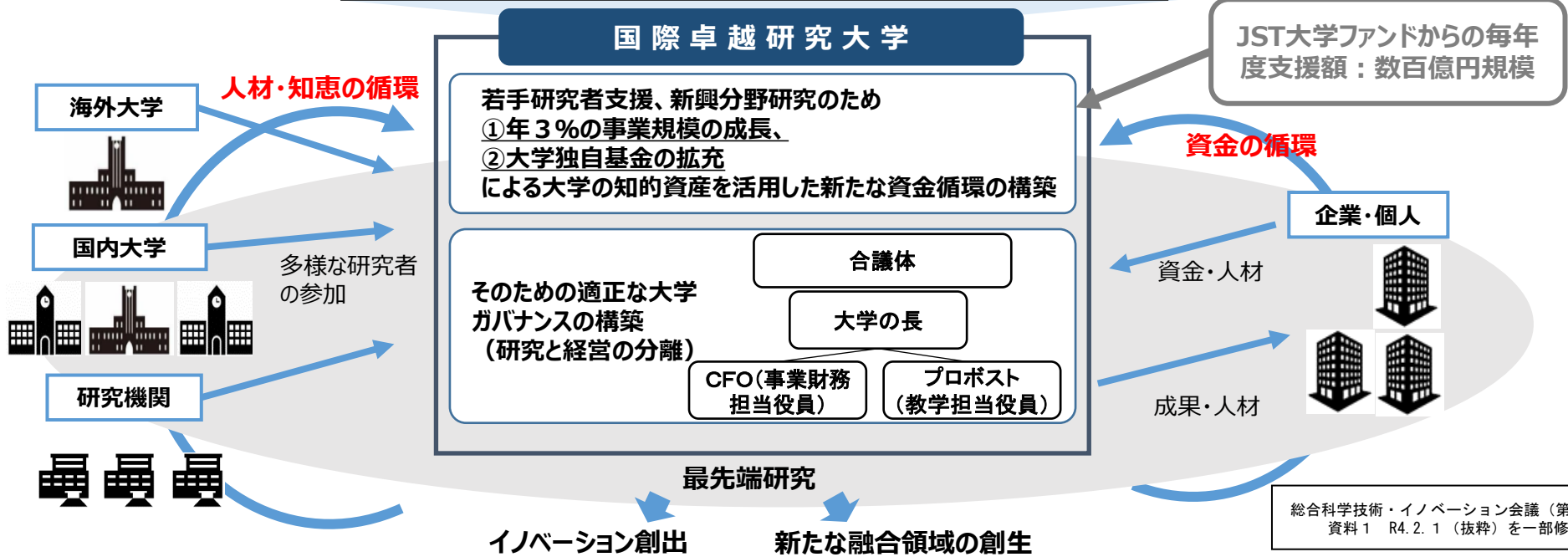


諸外国の大学は基金を充実

大学基金規模



大学ファンドによる支援を通じて、世界と伍する研究大学を実現



(参考) 米国における大学独自基金と大学ランキングとの関係

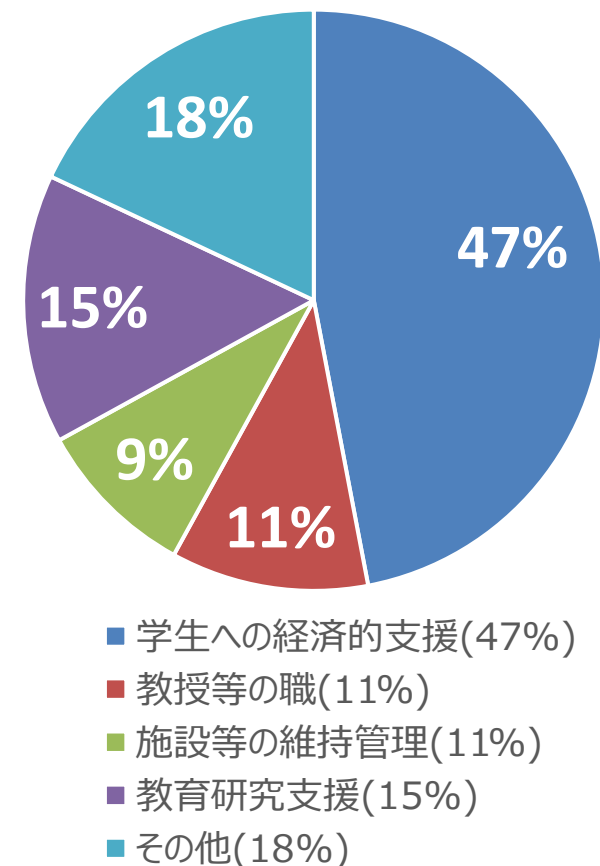
- 大学の財政力と教育研究機関の質は直接的に関係しないものの、大学独自基金(Endowment)トップ10の大学は、U.S. News*の大学ランキングでも上位を占めており、強い相関を示している。
 - 大学独自基金の規模が大きい大学は、その財政的余力を豊かな教育研究環境づくりに活用(全米平均では、大学独自基金の運用益から約4.5%を支出)。大学独自基金は、事業運営の独立性や財政面の安定性の向上に貢献。
- ※アメリカのU.S. News誌は、毎年、大学ランキングを発表。米国国内で用いられる大学ランキングとして最も一般的と言われている。

① 大学独自基金トップ10と大学ランキング

大学名	大学独自基金	U.S. News 大学ランキング
ハーバード大学	419億ドル	同率 2位
イエール大学	311億ドル	5位
スタンフォード大学	289億ドル	同率 6位
プリンストン大学	259億ドル	1位
マサチューセッツ工科大学	184億ドル	同率 2位
ペンシルバニア大学	149億ドル	8位
テキサスA&M大学(州立)	127億ドル	同率 68位
ノートルダム大学	123億ドル	19位
ミシガン大学(州立)	123億ドル	同率 23位
コロンビア大学	113億ドル	同率 2位

※2020会計年度終了時

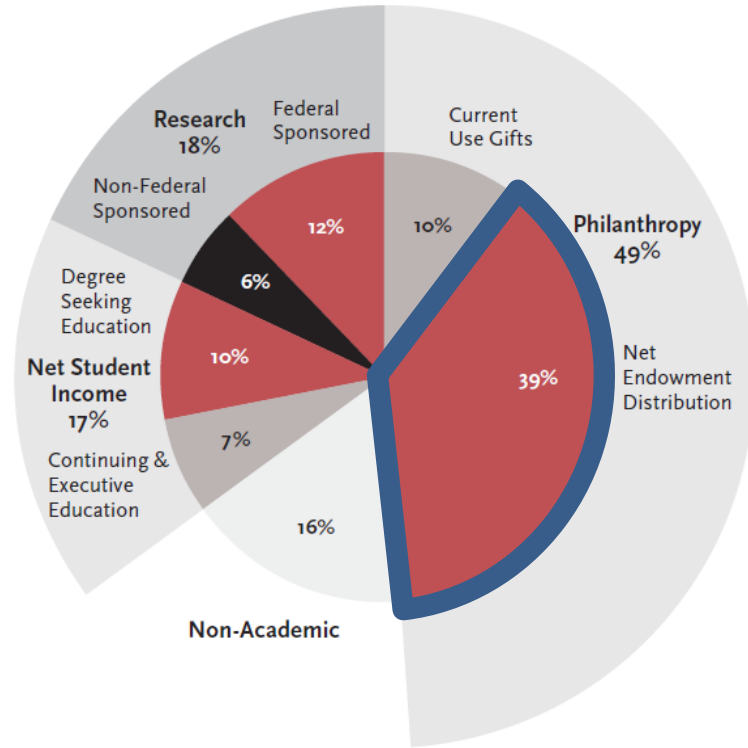
② 大学独自基金の使途



(事例) ハーバード大学の収入源

- ・2021会計年度において、52億ドルの収入のうち、**約4割(39%)の20億ドルが大学基金**の運用益からの配分。
- ・収入源が多様化しており、学部・研究科別の状況が異なる中、**大学基金が学内の教育研究活動を下支え**している。

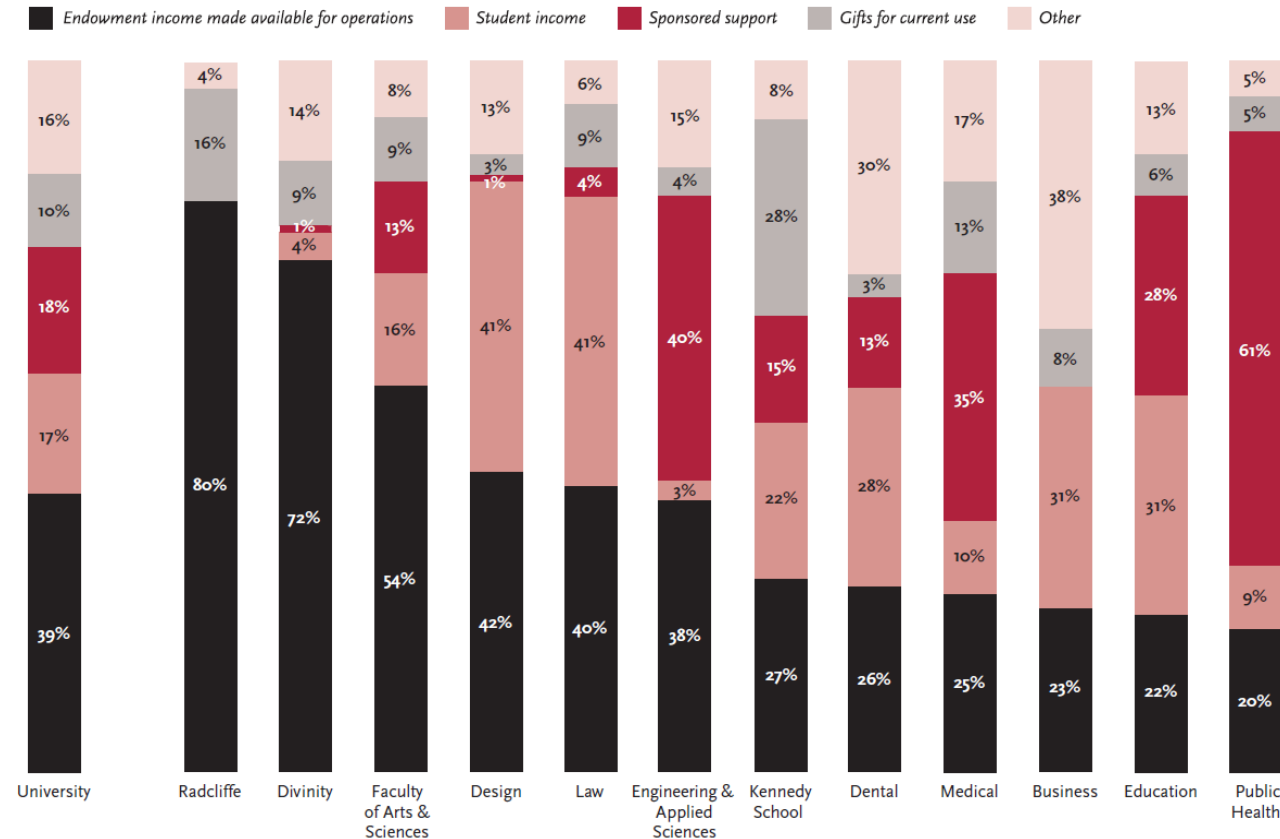
① 大学全体の収入源



- ✓ 大学全体の収入の約4割(39%)が大学基金の運用益からの配分
- ✓ 寄附が10%、学費収入が17%、連邦政府の研究費が12%、政府外の研究費が6%

② 学部・研究科別の収入源

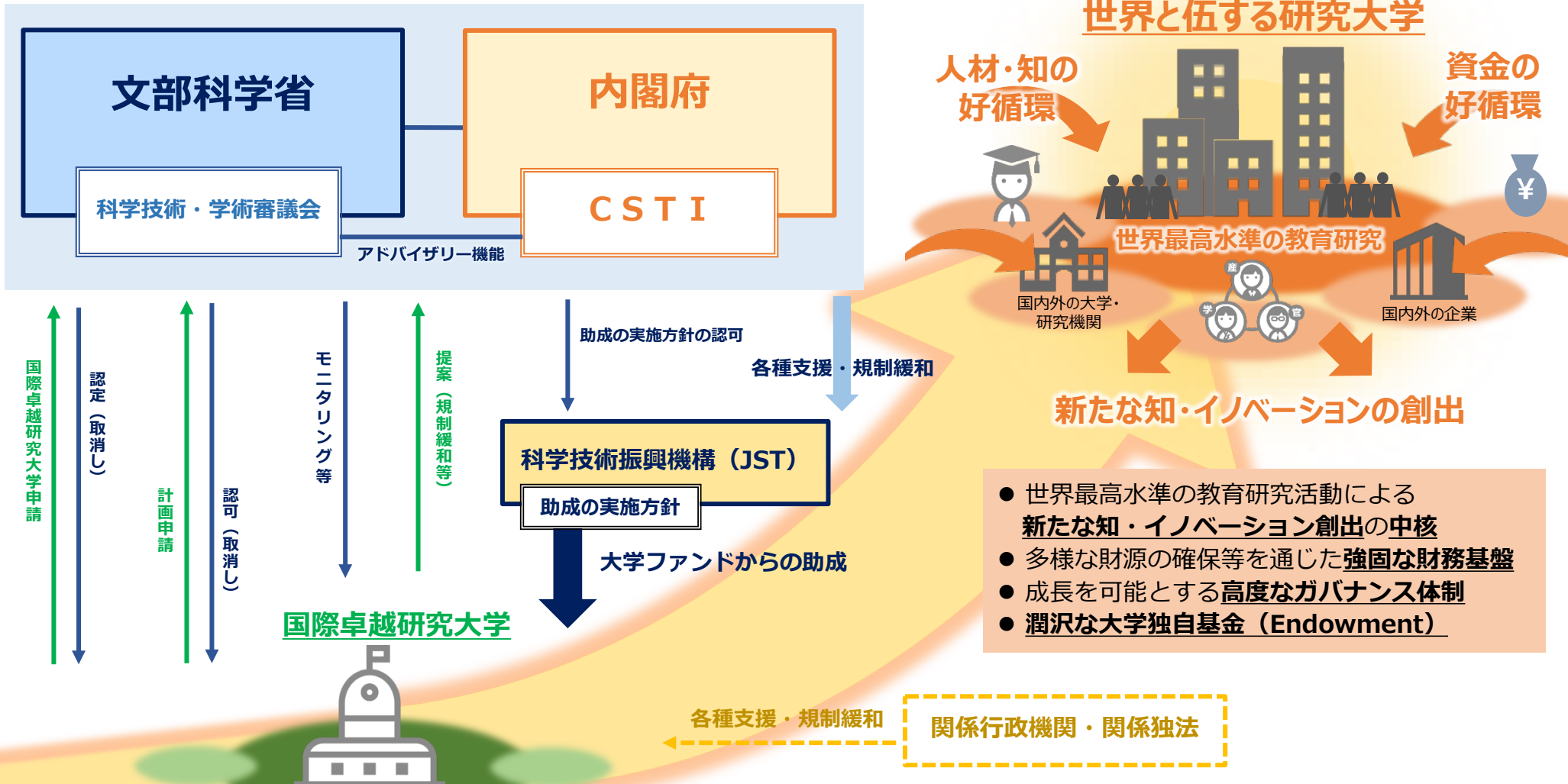
FISCAL YEAR 2021 SOURCES OF OPERATING REVENUE



黒 (大学基金)、**橙 (学費収入)**、**赤 (委託研究等)**、**灰 (寄附)**、**その他**

国際卓越研究大学制度の全体像（イメージ）

文部科学省 世界と伍する研究の実現に向けた制度改正等のための検討会議
「制度改正に向けた論点整理」
(抜粋) を一部修正



世界と伍する研究大学

人材・知の
好循環

資金の
好循環

世界最高水準の教育研究

国内外の大学・
研究機関

国内外の企業

新たな知・イノベーションの創出

- 世界最高水準の教育研究活動による **新たな知・イノベーション創出の中核**
- 多様な財源の確保等を通じた **強固な財務基盤**
- 成長を可能とする **高度なガバナンス体制**
- **潤沢な大学独自基金（Endowment）**

関係行政機関・関係独法

各種支援・規制緩和

～世界と伍する研究大学となるためのポテンシャル～

- 国際的に卓越した **研究成果の創出（研究力）**
- 実効性高く意欲的な **事業・財務戦略（3%成長）**
- 自律と責任ある **ガバナンス体制（合議体）**

～基本方針～

国際卓越研究大学制度の意義及び目標、認定等に関する基本的な事項
JSTの助成の実施方針に関する基本的な事項
科学技術・イノベーション政策との連携に関する基本的な事項 など

※制度の趣旨を踏まえれば、認定される大学は無制限に拡大するものではなく、数校程度に限定。

(参考) 大学を中核とした好循環に向けた取組 (海外の事例)

次世代技術の開発・実証 (自動運転)



米ミシガン大学 自動運転車実験施設「Mcity」

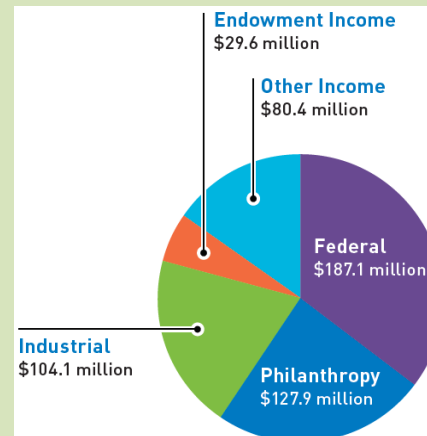
- ・ミシガン大学運輸研究所は、連邦運輸省や州交通局と一体となって、2012年から約3000台の車両が参加する協調型運転支援システムの実証実験を実施。2015年、中核実験施設として「**M City**」を建設。
- ・32エーカー(約13万m²)の敷地に、直線路、市外路、トンネル、踏切など、**多様な走行環境を再現**。建築物や街灯・道路標識などの交通施設も配置可能。交通管制システムや交通シミュレーションなどのIT基盤も整備。
- ・ミシガン大学が擁する**社会科学、人文科学などの研究者が連携**して、多面的な研究を機器・システムの開発と同時に行う体制。産学官が連携し、フォードなどとともに、**トヨタ、ホンダ、デンソーも中核企業**として名を連ねる。
- ・2018年、トヨタは、ミシガン州に60エーカー(約24万m²)の自動運転用試験場を開設するなど、同州の投資を拡大。



異分野融合研究の推進 (次世代医療)

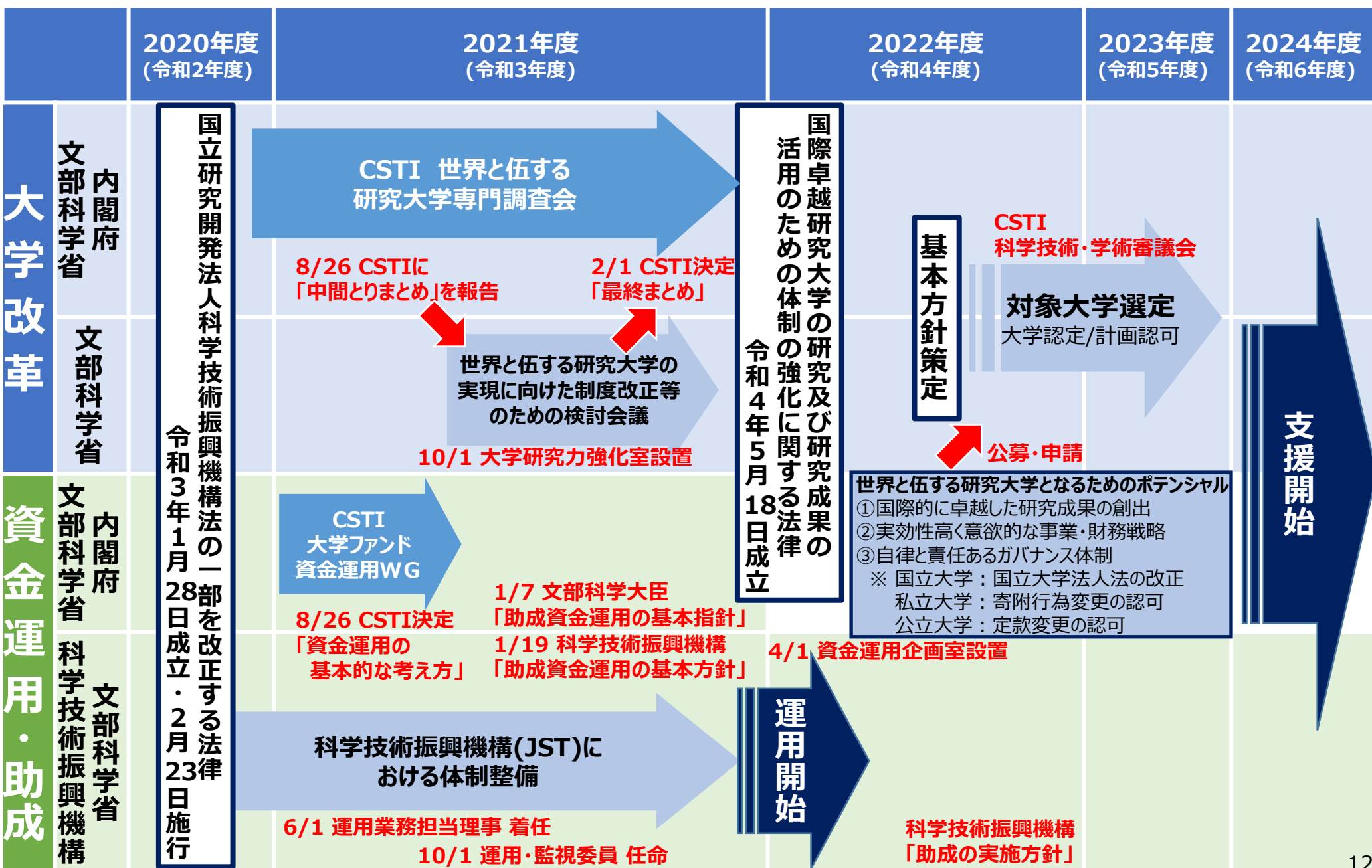


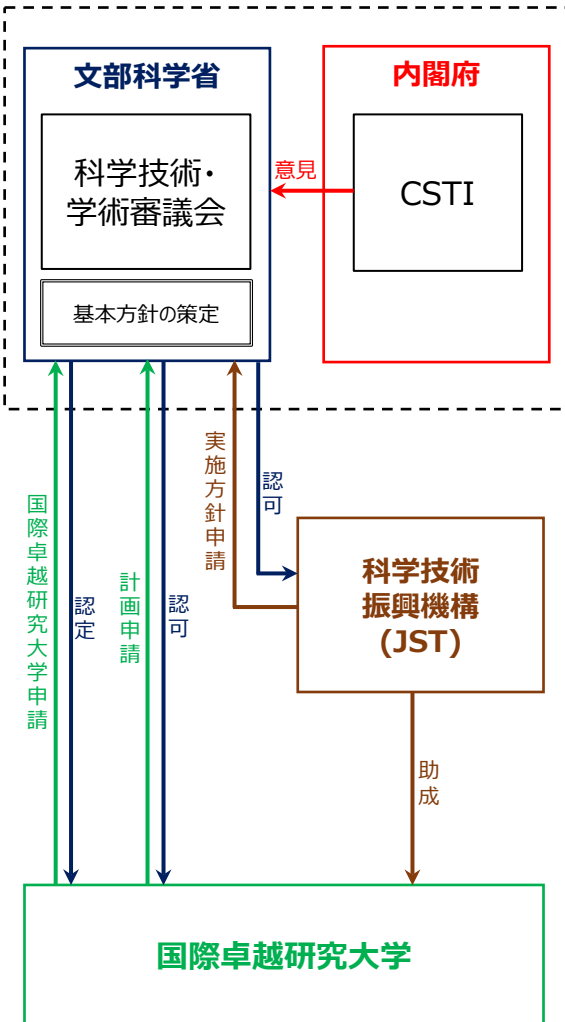
米ハーバード大学・MIT ブロード研究所



- ・ハーバード大学とMITの遺伝子医学の研究所が2004年に**統合改組して設立**。両大学が共同で運営。
- ・篤志家のブロード氏の**1億ドルの寄附により、創設**。2008年には、安定的に運営するために、**4億ドルの基金を造成**。
- ・毎年度の収入(約5億ドル)は、**政府・寄附・産業界・運用益等で構成**。
- ・バイデン米大統領の首席科学顧問であったランダー博士が初代所長。関連病院とも連携し、**ゲノム科学を通じて、異分野融合研究や次世代医療**に取り組む。

大学ファンド創設に関するこれまでの進捗と今後のスケジュール





※基本方針の策定、国際卓越研究大学の認定、国際卓越研究大学研究等体制強化計画の認可、助成の実施方針の認可等に当たっては、総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）からの意見聴取等を行う。

基本方針【第3条第2項関係】

- ① 国際卓越研究大学の研究等の体制の強化の推進の意義及び目標に関する事項
- ② 国際卓越研究大学の認定に関する基本的な事項
- ③ 国際卓越研究大学研究等体制強化計画の認可に関する基本的な事項
- ④ 助成に関し科学技術振興機構(JST)が遵守すべき基本的な事項
- ⑤ 科学技術の振興及びイノベーションの創出の促進に関する施策等との連携に関する基本的な事項
- ⑥ その他国際卓越研究大学の研究等の体制の強化の推進に関する重要事項

認定基準【第4条第3項関係】

- 研究力**
 - ① 国際的に卓越した研究の実績を有していること
 - ② 経済社会に変化をもたらす研究成果の活用の実績を有していること
 - ③ 教員組織及び研究環境等の研究の体制が整備されていること
 - ④ 民間事業者との連携協力体制等の研究成果の活用の体制が整備されていること
- ガバナンス**
 - ⑤ 効果的な資源の確保及び配分等の行える運営体制が整備されていること
 - ⑥ 研究に関する業務と管理運営に関する業務の適切な役割分担等の業務執行体制が整備されていること
- 事業成長**
 - ⑦ 国際的に卓越した研究等を持続的に発展させるために必要な財政基盤を有していること

国際卓越研究大学研究等体制強化計画【第5条第2項関係】

- 事業成長**
 - ① 研究及び研究成果の活用のための体制の強化の目標
 - ② 上記目標を達成するために行う事業の内容等
 - イ 国際的に卓越した科学技術に関する研究環境の整備充実
 - ロ 優秀な若年の研究者の育成及び活躍の推進に資する活動
 - ハ 国際的に卓越した能力を有する研究者及び研究の支援又は研究成果の活用のために必要な技術者その他の文部科学省令で定める人材(二において「技術者等」という。)の確保
 - ニ 技術者等の育成に資する活動
 - ホ 研究成果の活用のために必要な事業を行うための環境の整備充実
- 研究力**
 - ③ 上記事業を実施するために必要な資金の額及びその調達方法
- 事業成長**

大学支援の考え方のイメージ

- 国際卓越研究大学は、欧米のトップレベル大学と同様に、大学の総合知を活用した**社会的価値創出や社会課題解決に資する研究基盤への投資**だけでなく、大学の持続的成長に向けて、新たな学問分野や若手研究者への投資など**直ちに社会的価値につながらない次世代の知の創出**にも取り組むことが求められており、**長期的な視野に立って支援**を行っていく必要がある
- 外部資金獲得額等とのマッチングにより、運用益の範囲内で、**各大学に対し数百億円規模の支援**を継続的に実施

ファンドからの支援のイメージ（法第5条第2項関係）

- イ. **国際的に卓越した科学技術に関する研究環境の整備充実**
（例）研究実証施設や研究センターの整備、共用機器やデータ連携基盤を含めた最先端の研究設備の戦略的整備・更新・維持
- ロ. **優秀な若年の研究者の育成及び活躍の推進**
（例）安定した若手ポストの確保、博士課程学生の支援、海外研鑽機会の提供
- ハ. **国際的に卓越した能力を有する研究者の確保、研究の支援**
または研究成果の活用のために必要な技術者(技術者等)の確保
（例）世界トップの研究者の招聘・獲得、グローバル化を支える職員や研究マネジメント等の専門職人材の確保
- ニ. **技術者等の人材育成**
（例）研究マネジメント等の大学を支える専門職人材の研修
- ホ. **研究成果の活用のために必要な事業を行うための環境の整備充実**
（例）大学発スタートアップの創出拠点や産学共創拠点の形成

※ 上記はいずれもイメージであり、実際には大学から提出された計画に基づいて活用されることとなる

（参考）諸外国との教員給与比較

トップ大学では、**世界のトップ人材獲得**のために魅力的な給与、研究費、施設・設備等を提供。

○ 教員給与（役員以外の教授）

	平均	最高額
スタンフォード大学	2,800万円	1～2億円
ハーバード大学	2,600万円	2～4億円
UCバークレー	2,200万円	6～7千万円
国立大学	1,100万円	3,000万円

※ 世界と伍する研究大学専門調査会（第2回）資料を基に作成。

1. 世界と伍する研究大学の実現に向けた大学ファンドの創設
2. **地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージについて**
(総合振興パッケージ)
3. 大学の強みや特色を伸ばす取組の強化
(大学研究力関係)

- 総合振興パッケージは、全国に存在する我が国の様々な機能を担う多様な大学が、**戦略的な経営の展開を通じて自身の強みや特色を発揮**し、研究力向上や人材育成等により**新たな価値を創出**するとともに、社会との協働により人文・社会科学も含めた**あらゆる知見を総合的に活用（総合知）**し、成長の駆動力として**グローバル課題の解決や社会変革を牽引**することを目指している。
- それは単純に、「**知と人材の集積拠点**」である**大学への支援の強化**に留まらず、その政策効果を一層高めるべく、大学を取り巻く環境、例えば、重層的に展開されている複数の事業間、地域の産学官の関係者間、大学の研究成果の地域社会への実装など、それぞれを「**繋ぐ**」**機能や仕組みを政府が一丸となって支援強化**することと併せてパッケージとして、取りまとめたものである。
- 大学の持つ多様な「強み」や「特色」をどのように定義し、その発揮度合をどう評価するかなど、今後の検討課題は残されているがスタートラインとして本パッケージを**大学、自治体、産業界の関係者に広く周知**することで、地域の中核・特色ある研究大学が、**我が国全体の成長の駆動力として、それぞれのポテンシャルを最大限発揮されるようになることを期待**する。
- なお、本パッケージについては、文部科学省※で検討の緒に就いた、大学の強みや特色を伸ばす取組強化の具体化・実質化等に向けた議論の動向も踏まえつつ、**今後、改定を行っていく予定**（※ 科学技術・学術審議会大学研究力強化委員会）。
- さらに将来的には、現在、創設に向けた検討が進められている大学ファンドによる運用益からの支援が開始されるタイミングも見据えつつ、**パッケージの内容をさらに進化**させ、我が国全体の研究力向上に向けて、ファンド対象大学とそれ以外の大学との間の有機的な連携や効果的な資金配分の在り方について具体的な内容とするべく、**さらなる検討が必要**である。

【参考】

（総合科学技術・イノベーション会議 世界と伍する研究大学専門調査会 最終まとめ（抜粋））

- 我が国には、トップレベルの研究大学のみならず、**地域の中核大学や特定分野の強みを持つ大学の機能を強化し、成長の駆動力へと転換することで日本の産業力強化やグローバル課題解決にも貢献するような大学など、様々な機能を担う多様な大学が全国に存在**している。したがって、こうした多様な大学のポテンシャルの引き出しを牽引すべく、ファンドにより支援を受けるトップレベルの研究大学がハブとなりながら、人材の流動性向上や、共同研究の促進などを通じ、日本全体の研究力を引き上げていくことが求められる。（略）
- 我が国全体の研究力底上げのためには、全体を俯瞰した上で、この場で検討がなされた「世界と伍する研究大学」の在り方について最終まとめと同時に、**いち早く総合振興パッケージをとりまとめることで、我が国の意欲のある大学の多様性を維持発展させていくことが重要**である。今後、ファンドによる運用益からの支援が開始されるタイミングも見据えつつ、ファンド対象大学とそれ以外の大学との間の有機的な連携や効果的な資金配分の在り方については、パッケージの内容をさらに進化させることを前提として、より具体的な内容とするべく、引き続きさらなる検討が肝要であることを強く付言する。

- 個々の大学が、知的蓄積や地域の実情に応じた研究独自色を発揮し、研究大学として、自らの強みや特色を効果的に伸ばせるよう、**重層的な支援策をメニューとして分かりやすく可視化するとともに、予見可能性を向上**
- 大学のミッション実現に向け、基盤的経費と各種支援策とを連動させ、**大学マネジメントと連動した研究力向上改革**を推進
- **全学的な研究マネジメント体制の構築**（URA等の研究マネジメント人材や技術職員等の高度な専門職人材を含む）や**研究の独自性・競争力の向上**を通じて、**大学の戦略的な経営を強化し、新たな価値創造を推進**

今後の取組の方向性

①魅力ある拠点形成による大学の特色化

- 「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」を通じて、**多様性に富んだ国際的な融合研究拠点形成**を計画的・継続的に推進
- 大学の知的資産の蓄積や地域の実情に応じた**研究独自色の発揮**に向け、国際公募による人材確保や附置研究所の機能強化等の組織再編、若手研究者を中核とした創発の場の形成、「総合知」の創出・活用等に、全学的に取り組む大学を総合的に支援

②大学の研究基盤の強化

- 国内有数の研究施設・設備をプラットフォーム化し全国からの利用を可能とするとともに、大学等において機関全体として研究設備・機器群を戦略的に導入・更新・共用する仕組みを構築し、**分野・組織に応じた研究基盤の共用を推進**
- 研究動向や諸外国の状況を踏まえ、**最先端の中規模研究設備群を重点設備として整備**するとともに、研究設備の継続的・効果的な運用を行うための組織的な体制整備を戦略的に推進
- 地域や産業界等との共創の場となる「イノベーション・コモンズ」の実現を目指した大学等の**戦略的・計画的なキャンパス整備を推進**

※最先端中規模研究設備の例：クライオ電子顕微鏡、核磁気共鳴装置、高分解能電子顕微鏡、電子線描画装置、次世代シーケンサー等

※これらの方向性を具体化するに当たっては、国立大学法人運営費交付金（既存の教育研究組織改革に対する支援等）や研究費等の措置と連動するような仕組みとすることを検討

③組織間連携・分野融合による研究力の底上げ

- 世界と伍する研究大学や大学共同利用機関等がハブとなり、全国の国公私立大学等の連携を強化することにより、**人材の流動性向上**※や**共同研究の促進、リソースの共有**等を図り、我が国の高等教育システムや大学共同利用機関法人等を含めた全体の研究力向上を牽引する研究システムを構築
- 大学の研究力向上に貢献することを大きな使命とする**共同利用・共同研究体制**について、国際的な動向や研究DXの進展を的確に踏まえつつ、大学研究基盤としての機能を強化し、大学の枠を超えた我が国全体の英知の結集を促進

※クロスアポイントメント制度等も活用

1. 世界と伍する研究大学の実現に向けた大学ファンドの創設
2. 地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージについて
(総合振興パッケージ)
3. **大学の強みや特色を伸ばす取組の強化**
(**大学研究力関係**)

①魅力ある拠点形成による大学の特色化

- 「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」を通じて、**多様性に富んだ国際的な融合研究拠点形成**を計画的・継続的に推進
 - ✓ 令和4年2月1日から、新規採択機関の公募を開始（採択:3件、期間:10年、予算:原則年7億円、総額70億円を上限）
- 大学の知的資産の蓄積や地域の実情に応じた**研究独自色の発揮**に向け、国際公募による人材確保や附置研究所の機能強化等の組織再編、若手研究者を中核とした創発の場の形成、「総合知」の創出・活用等に、全学的に取り組む大学を総合的に支援



- **大学の知的資産の蓄積や地域の実情に応じた研究独自色の発揮に向け、…**
 - ◆ 特定の研究分野において、**国際基準に基づく高い研究実績**とともに、その活動内容から**研究者コミュニティの高い認知度・求心力**が認められる
 - ◆ 自治体、民間企業等を含む多様なステークホルダーとのつながりに基づき、**新しい資本主義へと社会変革を起こしていく原動力**になりえる
- **国際公募による人材確保や附置研究所の機能強化等の組織再編、若手研究者を中核とした創発の場の形成、「総合知」の創出・活用等に、全学的に取り組む大学を…**
 - ◆ 組織や分野の枠を越えて協働するために必要な**研究基盤の構築・運用**（研究DXの活用によるオープンサイエンス・オープンアクセス、共用体制の構築・運用等）を牽引している
 - ◆ 研究者・専門職人材の持続的な育成・確保や、魅力的な研究環境の整備等を通じた**好循環サイクル**（大学間、産学間、国際間等における人材の流動化を促す仕組み等）の実現に戦略的に取り組んでいる
 - ◆ 研究IR等の取組に基づく適切な**研究マネジメント・評価体制の構築・運用**が図られている
 - ◆ 強固な研究力の獲得・確保を通じて、**自律的・戦略的な大学等の経営**（財源の多様化、成長戦略等）を目指す、教職員一丸となったビジョンや共同体としての卓越性（Collective Excellence）が認められる



- **総合的に支援**
 - ◆ 多様な研究大学群の形成に向けて、**国公立大学等を単位とした支援**
 - ◆ 大学の戦略的な経営を強化し、基盤的経費において必ずしも対応しきれない、**大学マネジメントと連動した研究力向上改革**を推進（基盤的経費での措置に対して、連動・補完していく方向での支援）
 - ◆ 大学のミッション実現に向け、各種支援策を連動させ、進捗状況を随時把握しつつ、**伴走支援**

多様な研究大学群の形成に向けて（イメージ）

日本全体の研究力発展を牽引する研究システムを構築

メニュー①

日本全国の大学

※魅力ある拠点形成による大学の特色化

A大学

目指す方向性の一例

特定分野で世界トップレベルの研究やその研究を活かした若手研究者育成



世界
トップレベルの
研究拠点

B大学

目指す方向性の一例

基礎研究からイノベーション創出を一貫通貫で行い、大型の産学連携を推進



世界
トップレベルの
研究拠点
共創の場

C大学

目指す方向性の一例

産学官連携を推進し、地域の産業振興や課題解決に貢献



世界
トップレベルの
研究拠点
共創の場
地方創生
のハブ

メニュー②

特定の強い分野における
人材流動や
共同研究の促進等を通じ、
互いが切磋琢磨できる
関係を構築

人材流動

共同研究



世界と伍する研究大学 （当面数校程度）

※大学ファンドの運用益による支援



世界と伍する
研究大学



世界と伍する
研究大学

優秀な研究者が、所属機関の研究環境に左右されることなく力を発揮できるよう、最先端の研究基盤を活用した世界最高水準の研究基盤を整備

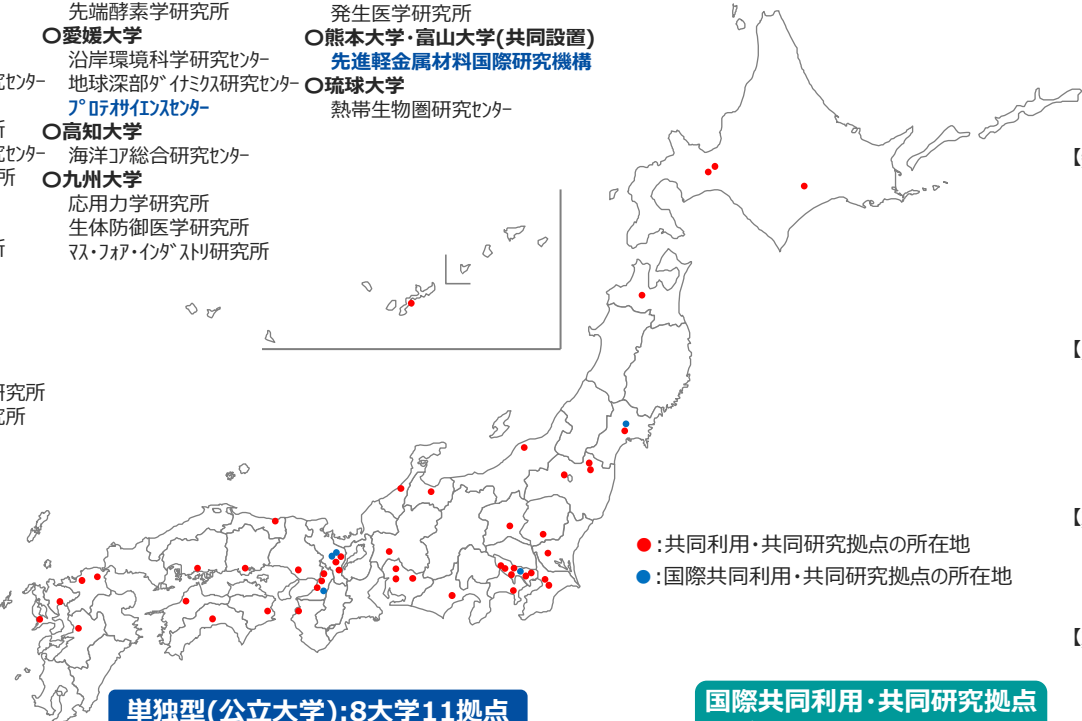
大学の研究基盤の強化

- 大学共同利用機関、共同利用・共同研究拠点等の共同利用・共同研究機能の強化や分野・組織に応じた研究基盤の共用を推進
- 最先端の中規模研究設備群の整備や、効果的・継続的運用を行うための組織的な体制を整備
- 基盤的経費や競争的研究費（人材育成、基礎研究振興、産学連携促進）による支援を通じた研究力の向上

共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点一覧（令和4年4月現在）

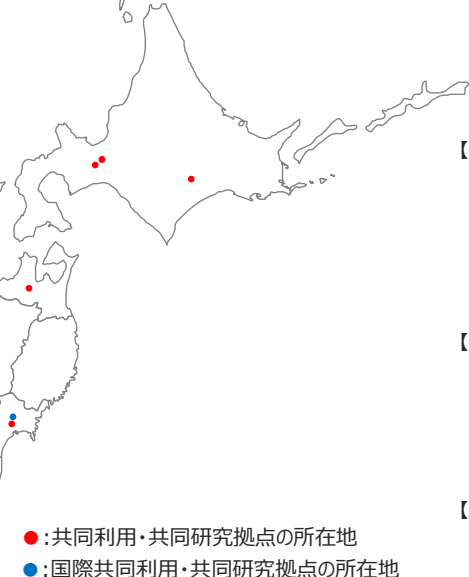
単独型(国立大学):28大学65拠点

- 北海道大学
 - 遺伝子病制御研究所
 - 人獣共通感染症国際共同研究所
 - スラブ・ロシア研究センター
 - 低温科学研究所
- 帯広畜産大学
 - 原虫病研究センター
- 東北大学
 - 加齢医学研究所
 - 電気通信研究所
 - 電子光学研究センター
 - 流体科学研究所
- 筑波大学
 - 計算科学研究センター
 - つくば機能植物イノベーション研究センター
 - ヒューマン・バイオ・フォーラム先端研究センター
- 群馬大学
 - 生体調節研究所
- 千葉大学
 - 環境リトモロジー研究センター
 - 真菌医学研究センター
- 東京大学
 - 空間情報科学研究センター
 - 地震研究所
 - 史料編纂所
 - 素粒子物理国際研究センター
 - 大気海洋研究所
 - 物性研究所
- 東京医科歯科大学
 - 難治疾患研究所
- 東京外国語大学
 - アジア・アフリカ言語文化研究所
- 東京工業大学
 - 科学技術創成研究院
 - 70年代材料研究所
- 一橋大学
 - 経済研究所
- 新潟大学
 - 脳研究所
- 金沢大学
 - がん進展制御研究所
 - 環日本海域環境研究センター
- 名古屋大学
 - 宇宙地球環境研究所
 - 低温プラズマ科学研究センター
 - 未来材料・システム研究所
- 京都大学
 - 医生物学研究所
 - ICT・理工学研究所
 - 基礎物理学研究所
 - 経済研究所
 - 人文科学研究研究所
 - 生存圏研究所
 - 生態学研究センター
 - 東南アジア地域研究研究所
 - 複合原子力科学研究研究所
 - 防災研究所
 - 野生動物研究センター
- 大阪大学
 - 社会経済研究所
 - 接合科学研究所
 - 蛋白質研究所
 - 微生物病研究所
 - レーザー科学研究研究所
- 鳥取大学
 - 乾燥地研究センター
- 岡山大学
 - 資源植物科学研究所
 - 惑星物質研究所
- 広島大学
 - 放射光科学研究センター
- 徳島大学
 - 先端酵素学研究所
- 愛媛大学
 - 沿岸環境科学研究センター
 - 地球深部データ解析研究センター
 - アフリカセンター
- 高知大学
 - 宇宙地球環境研究所
 - 海洋総合研究センター
- 九州大学
 - 応用力学研究所
 - 生体防御医学研究所
 - マシ・フォア・インターストリ研究所
- 佐賀大学
 - 海洋工機研究センター
- 長崎大学
 - 高度感染症研究センター
 - 熱帯医学研究所
- 熊本大学
 - 発生医学研究所
- 熊本大学・富山大学(共同設置)
 - 先進軽金属材料国際研究機構
- 琉球大学
 - 熱帯生物圏研究センター



国際共同利用・共同研究拠点(国立大学):4大学6拠点

- 東北大学
 - 金属材料研究所
- 東京大学
 - 医科学研究所
 - 宇宙線研究所
- 京都大学
 - 化学研究所
 - 数理解析研究所
- 大阪大学
 - 核物理研究センター



7拠点ネットワーク :19大学27拠点、5連携施設

【学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点】

- 北海道大学 情報基盤センター
- 東北大学 サイバーサイエンスセンター
- ★東京大学 情報基盤センター
- 東京工業大学 学術国際情報センター
- 名古屋大学 情報基盤センター
- 京都大学 学術情報メディアセンター
- 大阪大学 サイバーメディアセンター
- 九州大学 情報基盤研究開発センター

【物質・デバイス領域共同研究拠点】

- 北海道大学 電子科学研究所
- 東北大学 多元物質科学研究所
- 東京工業大学 科学技術創成研究院・化学生命科学研究所
- ★大阪大学 産業科学研究所
- 九州大学 先端物質化学研究所

【生体医工学共同研究拠点】

- ★東京医科歯科大学 生体材料工学研究所
- 東京工業大学 科学技術創成研究院・未来産業技術研究所
- 静岡大学 電子工学研究所
- 広島大学 ナノデバイス・バイ融合科学研究所

【放射線装置・医学研究拠点】

- ★広島大学 原爆放射線医学研究所
- 長崎大学 原爆後障害医療研究所
- 福島県立医科大学 ふくしま国際医療科学センター

【放射線環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点】

- 弘前大学 被ばく医療総合研究所
- 福島大学 環境放射能研究所
- ★筑波大学 アイソトープ環境動態研究センター
- <連携施設>
- 日本原子力研究開発機構 福島研究開発部門
- 福島研究開発拠点 廃炉環境国際共同研究センター
- 国立環境研究所 福島地域協働研究拠点
- 環境科学技術研究所

【触媒科学計測共同研究拠点】

- ★北海道大学 触媒科学研究所
- 大阪公立大学 人工光合成研究センター
- <連携施設>
- 産業技術総合研究所触媒化学融合研究センター

【糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点】

- ★名古屋大学・岐阜大学(共同設置) 糖鎖生命コア研究所
- 創価大学 糖鎖生命システム融合研究所
- <連携施設>
- 自然科学研究機構生命創成探究センター

単独型(私立大学):16大学17拠点

- 自治医科大学
 - 先端医療技術開発センター
- 慶應義塾大学
 - パナソニック設計・解析センター
- 昭和大学
 - 発達障害医療研究所
- 玉川大学
 - 脳科学研究所
- 東京農業大学
 - 生物資源ゲノム解析センター
- 東京理科大学
 - 総合研究院火災科学研究所
- 法政大学
 - 野上記念法政大学能楽研究所
- 明治大学
 - 先端数理科学イニシアティブ
- 早稲田大学
 - 各務記念材料技術研究所
 - 坪内博士記念演劇博物館
- 東京工芸大学
 - 風工学研究センター
- 中部大学
 - 先端医学研究センター
- 藤田医科大学
 - 中部高等学術研究所国際GISセンター
 - 医科学研究センター
- 京都芸術大学
 - 舞台芸術研究センター
- 同志社大学
 - 赤ちゃん学研究センター
- 大阪商業大学
 - 赤ちゃん学研究センター
 - JGSS研究センター
- 関西大学
 - リソネットワーク戦略研究機構

単独型(公立大学):8大学11拠点

- 札幌医科大学
 - 70年代医学研究所
- 会津大学
 - 宇宙情報科学研究センター
- 横浜市立大学
 - 先端医学研究センター
- 名古屋市立大学
 - 創業基盤科学研究所
 - 不育症研究センター
- 大阪公立大学
 - 数学研究所
 - 都市科学・防災研究センター
 - 附属植物園
- 和歌山県立医科大学
 - みらい医療推進センター
- 兵庫県立大学
 - 自然・環境科学研究所天文科学センター
- 北九州市立大学
 - 環境技術研究所先制医療工学研究センター/計測・分析センター

国際共同利用・共同研究拠点(私立大学):1大学1拠点

- 立命館大学
 - アート・リサーチセンター

国立大学が 中核の拠点	拠点数計			
	単独型	拠点 ネットワーク	国際 拠点	
	78	65	7	6

公私立大学が 中核の拠点	拠点数計			
	単独型	拠点 ネットワーク	国際 拠点	
	29	28	0	1

(*)青字の7拠点は令和4年4月から認定